

所属協会紹介

この欄では順次各支部協会のご紹介を致します。
次はこの所属協会が指名されるのか、ご準備ください！

AIS 愛知県インテリア設計士協会

事務局：名古屋市南区東又兵衛町2-4 安田 和弘内
〒457-0833 TEL. 052-612-0489
会長：河村 幸次/事務局長：安田 和弘

愛知県インテリア設計士協会(AIS)は、全日本室内装備設計士協会連合会の設立に合わせて、1957年(昭和32年)に設立されました。当時は愛知県和洋家具協同組合に所属していた企業が中心でした。AISでは試験講習会や、秋の研修旅行などのイベントを毎年行っていたのですが、コロナの影響でイベント開催を中止せざるを得ない状況になってしまいました。そんな中、オンライン講習会、YouTubeでの映像配信、リモートで理事会を行うなど、WEBを使った新しい活動方法を積極的に取り入れています。今年運営メンバーが大きく変わりましたので、メンバーの紹介を致します。全国のみなさん、新生AISを今後ともどうぞよろしくお願いたします。(会長・河村)



OIS 大分県インテリア設計士協会

事務局：大分県別府市餅ヶ浜町 10-41-A405
一級建築士事務所 MAESE 内
〒874-0924 TEL. 097-560-0744
会長：近藤 正一/事務局長：畝崎 俊秀

大分県インテリア設計士協会は2018年4月1日に発足し、1年間の準備期間を経て熊本県インテリア設計士協会の解散に伴い、2019年度から事業を引き継ぐかたちで本格的な活動を開始しました。「家具デザインコンペ」もその一つです。日本建築家協会九州支部大分地域会の協力をいただき1回目は無事に終了したのですが、その後すぐにコロナ禍となり、資格検定試験の勉強会すら人数制限のうえリモート授業とのハイブリッド形式とせざるを得ず、設立早々難儀な協会運営を強いられています。ホームページ(<http://www.k-kis.com>)をご覧くださいと一目でわかりますが、開催された関連イベントはすべてオンラインとなりました。しかし、これを契機にインターネットを活用した会員相互のコミュニケーション活性化やインテリア関連情報の提供・イベント開催等を充実していこうと前向きに考えています。また、私が九州支部長を務める日本インテリア学会をはじめ、これまで培ってきた大分県インテリアコーディネーター協会、建築士会・建築家協会・建築士事務所協会といった関連団体、行政、地元メディアとの良好な関係が、今後の強みになると考えています。連携事業をさらに強化し、積極的な協会運営に努めて参存です。



会長 近藤 正一

AIS メンバー紹介

- ①カトリーヌ/会長代行(渉外担当)
AISを会員同士の交流の場にしていきたいですね。
- ②安田恭子/事務局(経理担当)
今年から事務局でお手伝いさせていただいています。皆さんの力になれるように頑張りたいです。
- ③河村幸次/会長(全担当)
AIS新会長に就任いたしました。検定試験や学校訪問などでんやわんやですが、インテリアが好きな仲間達と一緒に、AISを盛り上げてまいります。
- ④有岡照人/副会長(渉外担当)
次世代を担う若い人たちに、インテリア業界に少しでも興味・関心を持ってもらえる活動をしていきたい。いつか大学、短大、専門学生になった時に一人でも多くの方が、当協会の試験を受け会員になりうる人材が増えていくことが、協会の存続、繁栄につながると思っています。その一翼を担えるよう努力いたします。
- ⑤保坂真由美/庶務サポート
- ⑥奥村正博/監事
- ⑦安田和弘/事務局長(渉外担当)
AISに関わる全ての人の力になればと思っています。
- ⑧杉浦潤/理事(試験担当・事業委員)
役員の中で一番皆さんに近い新人です。気軽に声をかけてくださいね！
- ⑨平松里香/理事(試験・庶務担当・事業委員)
SJITの知名度がアップするためにまずAISが会員に愛される団体になることを目指し頑張ります！
- ⑩高橋ますみ/監事(庶務担当)
AISを会員同士のスキルアップや情報交換の場にしていきたいです。
(※番号を振ってないのは保坂さんの娘さん)



AISでは毎年検定試験前にインテリア講座を実施している

大分建設新聞社 令和2年12月26日号掲載(抜粋)



7月11日 検定試験風景

SJIT通信

communication

一般社団法人
日本インテリア設計士協会
編集：日本インテリア設計士協会 会報編集室
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
Tel. 06-6262-1488 Fax. 06-6262-1553
E-Mail. sjit@jp-interior.or.jp
発行責任者：古田 廣己 編集：事務局

今後のインテリア設計士

昨年3月から新型コロナウイルスが猛威を振るい、主要都道府県では緊急事態宣言が発令されるなど混乱を極めた。開催が危ぶまれた東京オリンピック、パラリンピックは1年延期後、今年無観客ではあったが全競技を終了、無事閉会出来た。メダルも史上最多の獲得数でアスリートの目覚ましい活躍に目を見張り感動した。さて、本協会は7月10・11日、第61回インテリア設計士資格検定試験を実施した。1級は5名が合格、2級は769名の受験者が挑戦し538人が合格、2級の合格率は70%であった。1級は実務力、2級は基礎力を問うものだが、高い合格率は受験者の熱意が伝わるものであった。本協会が発刊しているテキスト(学科編・実技編・家具設計・室内設計)はインテリア学を踏襲する内容で最高の教材であると自負している。現代は家具、カーテン等の他、室内装備などインテリアの全てが身近に手の届くものになり、生活に夢や潤いが享受

出来るようになってきている。インテリア関連に就職希望する学生が増えてきているのも頷ける。私は次世代のインテリア設計士を社会へ送り、プロとして活躍出来る人材を育てることが本協会の理念であると思う。マイスター制度を確立し、資格試験等事業をより強化し拡大することも協会発展に繋がると信じているし、インテリア業界への貢献であると考えている。本協会は日本で一番早く発足したインテリアデザイン団体であるが、発足以来64年を迎え大きな曲がり角に来ていることも事実である。明日の発展を考え、社会貢献をいかにして行うべきか、今一度考えてみたい。



会長 古田 廣己

受験者数と合格者数

(合格 / 受験)

	1級			2級			合計	合格者
	2科目	実技	学科	2科目	実技	学科		
宮城	0	0	0	32/39	0	2/5	44	34
福島	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	-	-	-	-	-	-	-	-
東京	1/1	1/1	0	7/11	0	0	13	9
富山	-	-	-	-	-	-	-	-
石川	0	0	0	24/28	0	0	28	24
静岡	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	2/2	0	0	10/10	0	1/2	14	13
京都	0	0	0	312/485	3/3	0	488	315
大阪	0	0	0	23/39	3/4	1/2	45	27
兵庫	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	1認定	-	-	-	-	-	1	1
広島	0	0	0	17/18	0	1/1	19	17
山口	-	-	-	-	-	-	-	-
高知	0	0	0	55/66	0	0	66	55
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	0	0	0	47/55	0	1/1	56	48
合計	4	1	0	751	7	11	774	543

第61回インテリア設計士資格検定試験実施報告

第61回インテリア設計士資格検定試験が全国9つの所属協会にて7月10日・11日に行われた。昨年からのコロナ禍の影響で試験会場が数か所に分散される協会も出るなか、コロナ対策として検温やアルコール消毒、換気等、細心の注意を払い実施した。受験者・合格者は別表のとおりで、受験者774人(前年比126%)、2科目合格者は543人(同113%)であった。学校によっては対面授業が少なく、手描きを主とする当会の実技試験において、指導者、受講者ともに苦勞もあつたと思われるが、昨年よりも受験者が増えたことは、一定の評価に値するであろう。受験者属性は専門学校69%、4年生大学20%、高等学校8%、短期大学2%、社会人1%となっている。来年度、第62回の検定試験は7月9・10日に実施する予定で、まずは受験者1,000人を目標としたい。(試験問題の講評については2ページ以降に掲載)

第61回インテリア設計士資格検定報告

検定試験委員長 足田 友一



新型コロナウイルス禍の現在、3密(密閉・密集・密接)を回避し、ソーシャルディスタンス(社会的距離)を保ち、衛生面ではマスクの着用と手洗いやアルコール消毒の励行が叫ばれ、自粛生活を強いられている。また、働き方改革としてのテレワークやリモートワーク、大学などのオンライン授業の推奨などによって、在宅勤務や在宅学習など、今までの生活様式を変えなくてはならなくなっている。そして、ポストコロナ時代での新しい生活様式にまで、その影響が及んで行くと思われる。このような状況の中で、住生活の変革と対応に合わせたインテリア計画が重要な問題となっている。新型コロナウイルス禍での対策と終息後の住生活の変革と地球温暖化対策に向けて、我々日本インテリア設計士協会も積極的にかかわり、安全で快適な住環境の提案・創出に努力し、国民の住生活に貢献するための設計技術者を育成していかなければならない。

そのため、1級・2級の学科問題作成重点項目として「コロナ下における感染症など衛生や室内環境面での対策と新しい生活様式に対するインテリア計画」及び「サスティナブル(持続可能)なインテリア空間における環境・省エネ問題」を取り上げた

< 1級学科試験(小論文) >

論文課題は事前発表として①「新しい生活様式に対するインテリア設計」②「サスティナブルな設計手法」③「安全な住環境」の3つのテーマを掲げ、試験当日は②を解答論文課題とした。この3テーマとも現在の直面している重要課題で、1級学科問題として事前に考察してもらうことに意義がある。②のテーマは「コロナ下での住環境の変化に対応でき、加えて地球環境に配慮したインテリア計画に求められることを以下の項目ごとに整理して具体的に述べなさい。1)計画のポイント2)材料や施工3)設備計画」という内容であった。1級学科受験者は社会人3人と少なかったが、内容的には項目ごとに良くまとめられていた。

< 2級学科試験 >

上記学科重点項目をデザイン論、インテリア計画(計画基礎と人間工学)、室内環境(空気・換気・通風)、インテリア材料(プラスチック)、インテリア関連法規(マーク)などの中から取り上げた。デザイン史では「日本の明治以降の建築とインテリア」をテキストに記載されている内容に加え、記載されていないが更に必要と思われる項目を取り上げた。デザイン基礎(インテリアの表現技法)は今まで出題されていないが、テキストに記載されている内容で、インテリア設計士として当然知っておくべき基礎的な問題である。材料や構造・生産の問題は樹木の組織・構造、木造住宅の壁の工法・構造、肘掛け椅子の構造など、生産・施工を重視する当協会に適した内容であった。照明や住宅設備については過去問題でよく出る内容だったので解答はしやすかったと思われる。

今回の平均点は69.7点と難易度については問題がなかったと考えられる。難易度の分布は正解率で70~90%台が8問、60%台が5問、40%台が2問、30%台が1問あった。17問中8問が正解率70%以上であったことは、前回と比べると少し難解であったかと思われるが、全て知っていてほしい内容である。問題作成の重点項目として取り上げた問題は現在のコロナ下での重要事項として、この問題に関心を持ち、今後もよく勉強してもらいたい良い内容であったと思われる。

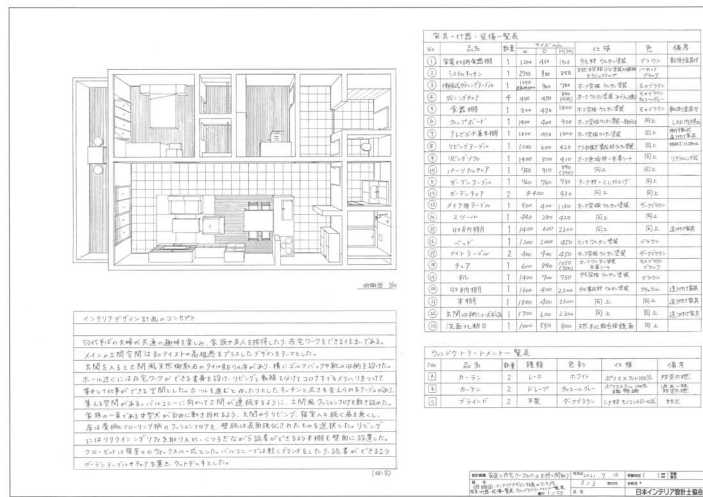
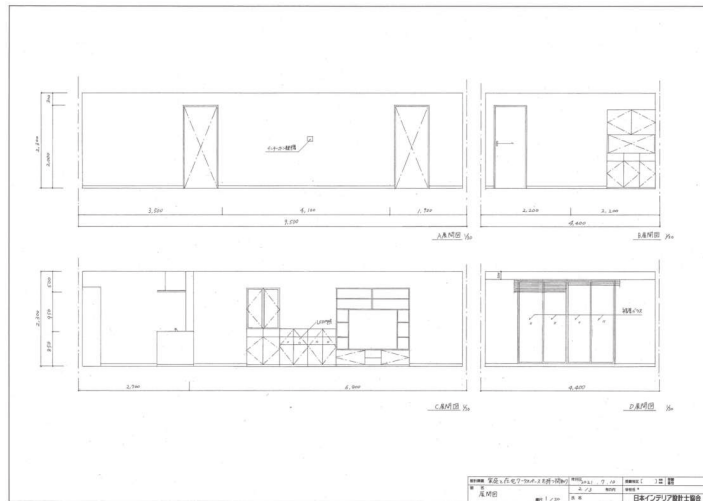
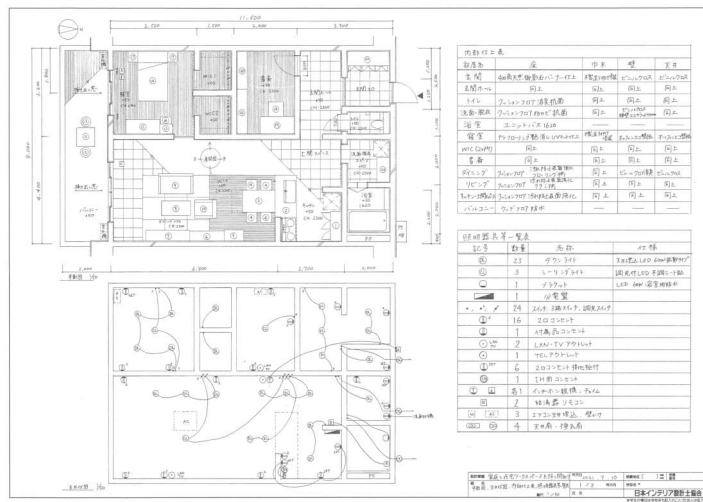
< 1級実技試験 >

設計課題はコロナ下における新しい生活スタイルを求め「家庭と在宅ワークスペースを持つ間取り」とした。「住戸は壁芯で間口8.0m×奥行11.5m、天井高さは躯体で2.7mの空間とし、形状は自由設計。住人は50代半ばの夫婦で、共通の趣味はゴルフ・ビデオ鑑賞・読書、週末には子供達や友人を招いて食事を楽しむ。ペットとして中型犬を飼っているので土間空間を基本とし、椅子感覚の和風テイスの空間構成を希望」という設定であった。

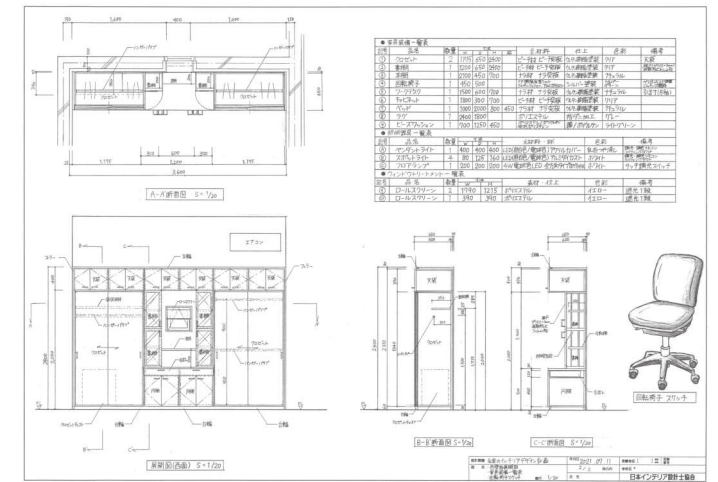
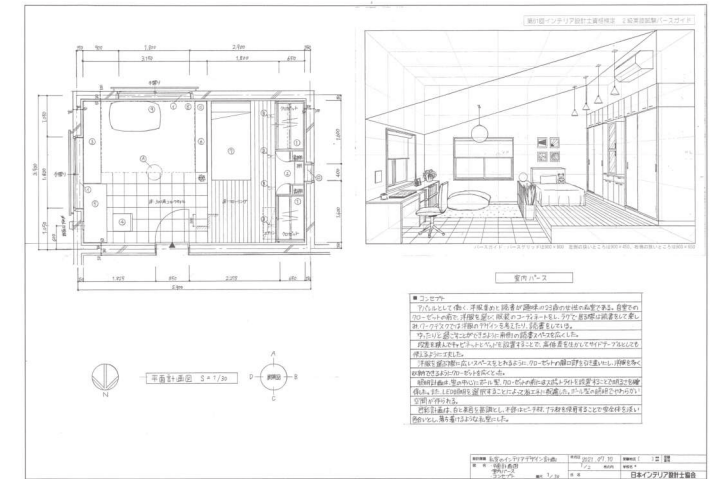
受験は社会人4人で、要求図面は全て描けていたが、内容としてはホームページに掲載した1級実技解答作品が、図面の作図技術も良く、それぞれのコンセプトにも特徴があり、上記の設定項目をほぼ満足していた。

1級の学科・実技試験は多くの知識・表現技術・実務経験が必要であるが、他の検定試験には無い内容で実力をフルに発揮できるところに楽しさと達成感がある。今後社会人や2級からのレベルアップで1級受験者が増えるよう所属協会の一層の努力を期待したい。

1級実技解答作品



2級実技解答作品



< 2級実技試験 >

設計課題は例年のごとく「私室のインテリアデザイン計画」とし、部屋の設定はスキップフロア(300上がり)、傾斜天井、スキップフロアの西側壁面に造り付け家具スペースとして奥行650・高さ2400の凹を設けるという設定であった。この造り付け家具スペースの中央には400角の窓があり、この窓をどのように生かして造り付け家具を計画するかが1つのポイントであった。しかもクロゼットの幅1800以上・高さ2400という要求項目を満足するには、窓の片サイドのスペースだけでは足りず、窓の両サイドに分割するか、窓を取り込んだ設計にしなければならない。多くの作品はクロゼットを窓の両サイドに分割する計画であったが、窓の片方のみで計画し幅不足となり、中には窓を造り付け家具で完全に塞いでしまって減点対象になる作品もあった。

平面計画では就寝・学習(作業)・寛ぎ・装いの4つのスペースを出入口からの動線計画を考慮して適正に計画し、設計・デザインに工夫や斬新なアイデアが感じられ、個性のある作品であることが望まれる。またスキップフロアと傾斜天井、造り付け家具スペースをどのように生かし計画するかも問われる。残念ながらこれは素晴らしいと思われる作品は少なかった。スキップフロア上にベッドやデスクを計画し、段差部分に家具やスクリーンなどで転落防止を考えていない作品も多かった。平面配置図兼天井伏せ図で計画したスキップフロア上の家具や天井照明器具と室内パースでの位置の整合性が取れていない作品も多かった。特に天井照明器具の室内パースでの配置においてはかなりの不整合があった。パースでスキップフロア上や傾斜天井部分に平面上のグリッドを補助線で落とし込めば不整合は起こらなかった。今後の課題として覚えていてほしい。

全体的にはレベルは高くなってきているが、さらに計画力・表現力を高め個性のある作品を目指してほしい。

業界で活躍するインテリア設計士

初めまして、京都光華女子大学の郭です。会報誌にご紹介いただき嬉しく思います。私は生まれも育ちも台湾です。日本の大学に進学するまでは台湾で生活していました。日本の歴史ある伝統的な建築に惹かれ、留学生として京都大学に入学して以来、もう16年の年月が経ちました。日本統治時代に台湾に生まれた「灣生」と呼ばれる日本の方が、台湾で建設した「日式住宅」を研究対象として取り上げ、博士論文を執筆しました。京大の博士学位を取得し、日本文部科学省の学術振興会の研究員の経験を経た後、台湾の大学に就職し、建築学科とインテリアデザイン学科の助教授として勤めました。昨年の4月、京都光華女子大学に着任し、現在はライフデザイン学科のインテリア分野の科目を担当しております。「インテリア設計士」は、2年間しかない本学の短大生にとってはハードルの高い資格ですが、今年は合格した指導学生が多数おり、私も頑張った甲斐があったと嬉しく思います。今後も、多くの学生が合格できるよう更に効果的な指導ができればと思っています。まだまだ未熟者ではありますが、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



京都光華女子大学短期大学部
ライフデザイン学科/専任講師・博士
郭 雅雯(クオ ヤウウェン) 1級 2280
京都府インテリア設計士協会・理事

SJIT 通信編集後記

昨年の3月頃から話題に上り始め、幾度も緊急事態宣言が発出されているコロナ禍も、早いもので一年半が経過しました。誰もが日常生活・社会生活ともに大きな影響を受けております。当協会においても、コロナ禍で二度目の資格検定試験を経験しております。今年も試験会場でクラスターを発生させることなく終えることが出来ました。受験生の皆さまにもご不便をおかけしましたが、試験運営にご尽力いただいた皆様に感謝いたします。今現在も感染対策に神経を使う状況が続いており、様々な局面で大きく価値観の変化が起きております。最近知り合った人は、顔

半分しか見たことがありませんし、人が直接集まるイベントが開きにくくなりました。仕事・打合せ・会議はリモートがスタンダードになりつつあります。分断化され、希薄化するよう感じる人間関係が広がっているような気がいたします。しかし、コロナ禍以前は良かったとネガティブな気分が塞ぐことなく、ピンチをチャンスと捉え、新たな商機となす気構えが必要ですね。(副会長・元山 ゆたか)

